

Veritas NetBackup™ Appliance リリースノート

リリース 3.1.1

VERITAS™

Veritas NetBackup™ Appliance リリースノート

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティの所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェア（「サードパーティプログラム」）が含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスに基づいて提供されています。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供され、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202 以下の「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となり、Veritas による納品が内部設置型またはホスト型のサービスのいずれであるかは問いません。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の Web サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL でベリタスアカウントの情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通(日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

最新のマニュアルは、次のベリタス Web サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

APPL.docs@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup appliance 3.1.1 について	6
	NetBackup appliance 3.1.1 について	6
	NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知	7
第 2 章	NetBackup appliance 3.1.1 の機能、拡張機能、 変更	8
	新機能、拡張機能、および変更点について	8
	NetBackup Appliance 3.1.1 の新機能、拡張機能、変更点	8
第 3 章	NetBackup Appliance ハードウェアの機能	10
	NetBackup 52xx のハードウェアの機能	10
	NetBackup 53xx のハードウェアの機能	12
	NetBackup 5330 アプライアンスのストレージシェルフについて 1 5	
	5U84 ストレージシェルフについて	16
	NetBackup Appliance ハードウェアの比較	16
第 4 章	NetBackup Appliance の互換性	19
	ソフトウェアリリース形式について	19
	NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて	20
第 5 章	操作上の注意	22
	NetBackup appliance 3.1.1 の運用上の注意について	22
	NetBackup Appliance 3.1.1 の新しい運用上の注意	23
	NetBackup Appliance の一般的な注意	25
	NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意	28
	インストールと構成の注意	29
	アップグレードとロールバックの注意	32
	VMware に関する注意事項	32
	NetBackup サポートユーティリティについて	33
	NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer)	33
	NetBackup サポートユーティリティ (NBSU)	35
	その他の利用可能なサポートについて	35

	NetBackup appliance のログファイルについて	35
付録 A	リリース内容	38
	現在のリリースの内容について	38
	NetBackup Appliance 3.1.1 の一般的なリリース内容	39
	NetBackup Appliance のセキュリティリリース内容	39
付録 B	関連ドキュメント	42
	NetBackup アプライアンスのマニュアルについて	42

NetBackup appliance 3.1.1 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup appliance 3.1.1 について](#)
- [NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知](#)

NetBackup appliance 3.1.1 について

『NetBackup Appliance リリースノート』は、NetBackup Appliance のリリース時点におけるバージョンの情報を概説したものです。古い情報と該当のリリースに当てはまらない情報はリリースノートから除外されています。古い情報は以前の NetBackup Appliance マニュアルで調べることができます。

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。これらの問題の多くは、テクニカルサポートケースの形式で文書化されているお客様固有の問題に関するものです。このリリースに組み込まれた修正の多くは、個別のエンジニアリングバイナリおよびエンジニアリングバンドル (EEB) として利用できます。EEB は、NetBackup Appliance ソフトウェアの以前のバージョンにおけるお客様固有の問題に対処するために作成されました。このリリースで作成され、導入されたエンジニアリングバイナリとバンドルは、Veritas SORT (Services and Operations Readiness Tools) やこのマニュアルの付録の「リリース内容」で確認できます。

NetBackup ソフトウェアバージョン 8.1.1 は NetBackup appliance 3.1.1 のリリースに付属しています。NetBackup 8.1.1 の新しい機能、拡張および修正については、ベリタスのサポート Web サイトの文書『NetBackup 8.1.1 リリースノート』に記載しています。

NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知

NetBackup Appliance の製品には、ベリタスが帰属を明示する必要があるサードパーティのソフトウェアが含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスに基づいて提供されています。ソフトウェアに含まれる使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権の表記およびライセンスについては、次の Web サイトにある『NetBackup Appliance Third-party Legal Notices』ドキュメントに記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

NetBackup appliance 3.1.1 の機能、拡張機能、変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [新機能、拡張機能、および変更点について](#)
- [NetBackup Appliance 3.1.1 の新機能、拡張機能、変更点](#)

新機能、拡張機能、および変更点について

このリリースでは多くの新機能の導入に加えて、NetBackup Appliance の以前のリリースにおける問題点が改善され、機能も強化されています。このリリースの NetBackup Appliance の新機能、拡張機能、および変更点については、この章の以降のセクションを参照してください。

NetBackup Appliance 3.1.1 の新機能、拡張機能、変更点

次のリストに、NetBackup appliance 3.1.1 リリースの新機能、拡張機能、変更点を示します。

- このリリース以降、NetBackup アプライアンスは連邦情報処理標準 (FIPS) をサポートし、FIPS 140-2 標準の明確な定義に従います。NetBackup Appliance Shell Menu で、FIPS 機能を有効にして NetBackup MSDP のセキュリティを強化できます。この機能について詳しくは、『NetBackup Appliance セキュリティガイド』を参照してください。FIPS コマンドについて詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

メモ: 高可用性 (HA) 設定のアプライアンス (ノード) では、現在 FIPS 機能の使用はサポートされていません。

- このリリース以降では、アプライアンス管理コンソールを使用して **NetBackup** アプライアンスをアップグレードできます。ソフトウェアバージョン **2.7.3** 以降を使用するアプライアンスでは、コンソールを使用したアップグレードがサポートされます。詳しくは、『ベリタスアプライアンス管理ガイド』を参照してください。

メモ: アプライアンス管理コンソールでは、**NetBackup** 仮想アプライアンスまたは高可用性 (HA) 設定のアプライアンス (ノード) のアップグレードはサポートされません。これらのアプライアンスをアップグレードするには、**NetBackup Appliance Shell Menu** を使用します。

- ソフトウェアバージョン **3.1.1** 以降では、ベリタスオペレーティングシステム (VxOS) が更新され、**RHEL (Red Hat Enterprise Linux) バージョン 7.4** がベースになっています。

NetBackup Appliance ハードウェアの機能

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 52xx のハードウェアの機能](#)
- [NetBackup 53xx のハードウェアの機能](#)
- [NetBackup Appliance ハードウェアの比較](#)

NetBackup 52xx のハードウェアの機能

このリリースは、アプライアンスの 52xx ハードウェアアーキテクチャをサポートします。これらのアーキテクチャは、以下のいずれかのモードで構成できます。

- アプライアンスマスターサーバー
- アプライアンスマスターサーバーおよびメディアサーバー
- アプライアンスメディアサーバーのみ

5240 は 52xx の最新ハードウェアアーキテクチャです。NetBackup 5240 Appliance は、アプライアンスソフトウェアバージョン 2.7.3 以降をサポートします。

アプライアンスソフトウェアバージョン 3.1 以降、NetBackup 5240 Appliances では 2U12 ストレージシェルフを 6 つまでサポートします。NetBackup Appliance ソフトウェアのバージョン 2.7.3 以前では、I/O 構成 H、J、K、L はサポートされていません。

NetBackup Appliance の互換性に関する最新情報については、次のサイトに掲示されている「NetBackup ハードウェア互換性リスト」を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100036440>

メモ: アプライアンスソフトウェアバージョン 2.7.1 以降では、「52xx」に NetBackup 5200 は含まれません。このモデルは、ソフトウェアバージョン 2.6.1.2 以降をサポートせず、Linux RHEL オペレーティングシステムまたはその他の関連するアプライアンスハードウェアやソフトウェアの機能をサポートしません。

52xx アプライアンスのすべてのアーキテクチャは、特に明記されていない限り以下の機能をサポートします。

- 5230 - デュアルプロセッサ、6 つのコアプロセッサ、Intel ベースのシステム
- 5240 - デュアルプロセッサ、8 つのコアプロセッサ、Intel ベースのシステム
- それぞれに、いくつかのホットスワップ外部ドライブがある
- 外部テープドライブをサポートするファイバーチャネルの接続性
- 基本構成は、ギガビットイーサネットネットワークをサポートする
- 高性能ハードウェア RAID コントローラ
- それぞれが、コードベースとして NetBackup を使用する
- RHEL オペレーティングシステム (ベリタス提供)。
- それぞれが、NetBackup Appliance ソフトウェアの最新版を実行できる
- それぞれが、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) ストレージをサポートする (メディアサーバーとして構成されている場合)。MSDP は 52xx アプライアンスの利用可能な最大ストレージ容量を上限に提供する

NetBackup 5220 と 5230 Appliance は、Intel X520 SR2 10 Gb イーサネットカードをシステムの標準またはオプションとして使用します。

NetBackup 5240 Appliance は、Intel X710 10Gb イーサネットカードをシステムの標準またはオプションとして使用します。

NetBackup 5240 Appliance には、構成に応じて 4 TB から 27 TB までのフォーマット済み総ストレージ容量を提供する 8 つの内部ストレージディスクドライブが含まれています。

NetBackup 5230 Appliance には、4 TB から 14 TB までのフォーマット済み総ストレージ容量を提供する 8 つの内部ストレージディスクドライブが含まれています。

NetBackup 52xx Appliance には、追加ストレージとして Veritas Storage Shelf を接続できます。

表 3-1 に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に NetBackup 5240 Appliance で利用可能なフォーマット済みストレージ容量を示します。NetBackup 5240 Appliance のリリース 3.1 では、6 台の 2U12 ストレージシェルフをサポートするようになりました。

表 3-1 NetBackup 5240 Appliance バージョン 3.1.1 で利用可能なストレージ容量オプション

アプライアンスのみ	ストレージシェルフ	アプライアンスと 1 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 2 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 3 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 4 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 5 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 6 台のストレージシェルフ
4 TB	49 TB	53 TB	102 TB	151 TB	200 TB	249 TB	298 TB
14 TB	49 TB	63 TB	112 TB	161 TB	210 TB	259 TB	308 TB
27 TB	49 TB	76 TB	125 TB	174 TB	174 TB	272 TB	321 TB

ストレージ容量について詳しくは、『NetBackup 5240 Appliance 製品説明』を参照してください。

表 3-2 に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に NetBackup 5230 Appliance で利用可能なフォーマット済みストレージ容量を示します。

表 3-2 NetBackup 5230 Appliance バージョン 3.1.1 で利用可能なストレージ容量オプション

アプライアンスのディスクドライブ	アプライアンス	ストレージシェルフディスクドライブ	ストレージシェルフ	アプライアンスと 1 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 2 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 3 台のストレージシェルフ	アプライアンスと 4 台のストレージシェルフ
1 TB	4.55 TB	2 TB	24 TB	28.55 TB	52.55 TB	*	*
1 TB	4.55 TB	3 TB	36 TB	40.55 TB	76.55 TB	112.55 TB	148.55 TB
3 TB	13.65 TB	2 TB	24 TB	37.65 TB	61.65 TB	*	*
3 TB	13.65 TB	3 TB	36 TB	49.65 TB	85.65 TB	121.65 TB	157.65 TB

* 必要に応じて、2 TB ストレージのドライブは提供可能です。

NetBackup Appliance のハードウェアアーキテクチャについて詳しくは、『NetBackup Appliance と Veritas Storage Shelf の製品説明』を参照してください。

NetBackup 53xx のハードウェアの機能

このリリースでは、NetBackup 5330 Appliance と 5340 Appliance をサポートします。

53xx アプライアンスは、メディアサーバーとしてのみ構成できます。

NetBackup 53xx アプライアンスには、以下の機能が搭載されています。

- メモリ

NetBackup 5330 Appliance には、800 MHz で動作する 384 GB の RAM が搭載されています。

NetBackup 5340 Appliance には、2666 MHz で動作する 768 GB の RAM が搭載されています。
- 速度

5330 には、通常 2.8 GHz、最大 3.1 GHz の 10 コアのプロセッサが搭載されています。

5340 には、通常 2.0 GHz、最大 3.7 GHz の 20 コアのプロセッサが搭載されています。
- 動作電圧

5330 は 1.35 V で動作します。

5340 は 1.2 V で動作します。
- 耐性の高いストレージアーキテクチャ

NetBackup 53xx Appliance の冗長コンポーネントによって、アプライアンスはハードウェアコンポーネントでエラーが発生した場合でも生産性を維持できます。この機能によって、欠陥のある部品を交換するまで、ハードウェアの障害が操作に及ぼす影響を最小限に抑えることができます。
- ホットスワップ対応のコンポーネント

53xx の外部 RAID コントローラはホットスワップ対応のため、操作を中断することなく欠陥のあるコントローラを交換できます。
- 複数の冗長データパス

NetBackup 53xx は、すべての重要なストレージで冗長データパスを備えています。これによって、複数のコンポーネントエラーが発生した場合でも動作することができます。

NetBackup 5340 アプライアンスには、計算ノードとプライマリストレージシェルフが装備されています。計算ノードにはいずれのストレージも装備されていません。プライマリシェルフでは、搭載されているディスクドライブの数と個々の容量に応じて 120 TB、240 TB、または 480 TB のストレージ容量を使用できます。最大 3 台のオプションの 5U84 拡張シェルフも利用できます。プライマリシェルフと拡張シェルフは 4 TB または 8 TB のドライブをサポートしますが、シェルフ内のすべてのドライブを同じ容量にする必要があります。合計容量の半分を使用するストレージシェルフを利用できます。次の表に、NetBackup 5340 Appliance システムで利用可能なフォーマット済みストレージの容量を示します。

表 3-3 5U84 ストレージシェルフのバージョン 3.1 で使用可能なディスクドライブ別の容量

使用可能なストレージ容量 (4 TB ドライブを使用)	使用可能なストレージ容量 (8 TB ドライブを使用)
120 TB	240 TB

使用可能なストレージ容量 (4 TB ドライブを使用)	使用可能なストレージ容量 (8 TB ドライブを使用)
240 TB	480 TB
360 TB	720 TB
480 TB	960 TB*
600 TB	1200 TB*
720 TB	1440 TB*
840 TB	1680 TB*
960 TB*	1920 TB*

メモ: * NetBackup 5340 Appliance ソフトウェアバージョン 3.1 は、使用可能な MSDP ストレージ容量として最大で 916 TB までサポートします。

NetBackup 5330 ハードウェアには、アプライアンスとプライマリストレージシェルフが備わっています。アプライアンスはストレージを備えていませんが、プライマリストレージシェルフと最大 5 台の拡張ストレージシェルフの空き領域をバックアップに使うことができます。プライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフは 3 TB または 6 TB のディスクドライブをサポートしますが、シェルフ内のすべてのドライブを同じ容量にする必要があります。次の表に、NetBackup 5330 アプライアンスシステムで利用可能な、フォーマット済みストレージの容量を示します。

表 3-4 NetBackup 5330 Appliance バージョン 3.1.1 ストレージ容量オプション

NetBackup 5330 Appliance (ソフトウェアバージョン 3.1.1)	プライマリストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	利用可能なストレージ容量
ストレージオプション A	114 TB	-	-	114 TB
ストレージオプション B	114 TB	114 TB	-	229 TB
ストレージオプション C	114 TB	114 TB	114 TB	343 TB
ストレージオプション D	114 TB	229 TB	-	343 TB

NetBackup 5330 Appliance (ソフトウェアバージョン 3.1.1)	プライマリストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	拡張ストレージシェルフ	利用可能なストレージ容量
ストレージオプション E	114 TB	114 TB	229 TB	458 TB
ストレージオプション F	114 TB	229 TB	229 TB	572 TB
ストレージオプション G	229 TB	-	-	229 TB
ストレージオプション H	229 TB	229 TB	-	458 TB
ストレージオプション I	229 TB	229 TB	229 TB	687 TB

NetBackup Appliance のハードウェアアーキテクチャについて詳しくは、『NetBackup Appliance と Veritas Storage Shelf の製品説明』を参照してください。

NetBackup 5330 アプライアンスのストレージシェルフについて

NetBackup 5330 Appliance は内蔵ストレージを装備していないため、以下の外部ストレージシェルフを使用する必要があります。

- プライマリストレージシェルフ
このストレージシェルフには RAID コントローラが搭載されており、5330 アプライアンスをインストールする場合に必要です。このユニットは、ファイバーチャネル (FC) ケーブルでアプライアンスに直接接続します。ANetBackup 5330 システムには、1 台のプライマリストレージシェルフが必要です。
- 拡張ストレージシェルフ
このストレージシェルフはオプションで、プライマリストレージシェルフのみを搭載した最小構成システムのディスク容量を増やすために使用します。このシェルフは、SAS ケーブルで直接プライマリストレージシェルフに接続します。NetBackup 5330 システムでは、最大 5 台の拡張ストレージシェルフをサポートします。

メモ: プライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフは、NetBackup 52xx アプライアンスと互換性がありません。Veritas Storage Shelf は NetBackup 5330 または関連付けられたストレージシェルフのいずれとも互換性がありません。

NetBackup Appliance Web Console から NetBackup 5330 の初期構成を開始すると、[ストレージの概要 (Storage Overview)] ページが表示されます。このページによって、システムのハードウェア構成が示され、接続性や存在する可能性のあるディスクドライブ

の問題が特定されます。初期構成に進む前に、特定されたすべての問題を修正することをお勧めします。

NetBackup Appliance Shell Menuから初期構成を実行する場合、`Test hardware` コマンドを手動で実行して接続性や存在する可能性のあるディスクドライブの問題を特定できます。

詳しくは『NetBackup Appliance Initial Configuration Guide』を参照してください。

5U84 ストレージシェルフについて

NetBackup 5340 と NetBackup 5340 高可用性 (HA) 計算ノードには、いずれの内部ストレージも装備されていません。どちらの構成でも、以下に示すように外部ストレージシェルフを使用します。

- **5U84 プライマリストレージシェルフ (必須)**
このシェルフは、計算ノードとオプションの拡張シェルフに直接接続します。
- **5U84 拡張ストレージシェルフ (オプション。最大 3 台のシェルフ)**
このシェルフはプライマリシェルフに直接接続します。

5U84 ストレージシェルフの機能は、以下のとおりです。

- ストレージシェルフは、**C19** と **C20** コネクタを使用して **AC 220 V (20 A)** で稼働する必要があります。
- ディスクドライブが設置されていないストレージシェルフの重量は、最大 **61.65 kg (135.72 lbs)** です。ディスクドライブは、ストレージシェルフとは別途出荷されます。シェルフをラックに取り付けてからディスクを取り付けます。
- レールの前面支柱の内側から背面支柱の内側までの長さは、**713 mm から 884 mm (28 インチから 34.8 インチ)** です。ラックにこの長さが収まることを確認します。その他に、電源ストリップ、電源コード、その他のケーブルを収めるスペースも確保してください。
- 必要に応じて、半分の容量のストレージシェルフを利用できます。利用可能なストレージ容量について詳しくは、『NetBackup 5340 Appliance 製品説明ガイド』を参照してください。

[NetBackup Appliance のマニュアル](#)

NetBackup Appliance ハードウェアの比較

表 3-5 に、NetBackup 53xx Appliance と 52xx Appliance 間の違いの概要を示します。

表 3-5 NetBackup 5340 Appliance、NetBackup 5330 Appliance、
 NetBackup 5240 Appliance、NetBackup 5230 Appliance の比較

パラメータ	NetBackup 5340	NetBackup 5330	NetBackup 5240	NetBackup 5230
ロール	メディアサーバーのみ	メディアサーバーのみ	マスターサーバーまたはメディアサーバー	マスターサーバーまたはメディアサーバー
コア	40	20	16	12
キャッシュ	55 MB	50 MB	40 MB(20 MB/CPU)	30 MB
RAID キャッシュ	27.5 MB キャッシュ x 3	24 GB	1 GB	1 GB
CPU 速度	2.0 GHz	2.8 GHz	2.4 GHz	2.0 GHz
ターボ速度	3.7 GHz	3.1 GHz	3.2 GHz	2.5 GHz
QPI 速度	10.4 GT/秒	8 GT/秒	8 GT/秒	7.2 GT/秒
システムメモリ	768 GB	384 GB	64 GB メモ: 最初のストレージシェルフを購入すると、ストレージシェルフに同梱されるストレージ拡張には、追加の 64 GB メモリが含まれています。 最初のストレージシェルフとメモリを追加した後、追加の 64 GB メモリキットを購入して、アプライアンスのメモリを最大 192 GB まで増やすことができます。	128 GB (拡張ストレージ付き)
メモリ構成 (DIMM)	32 GB x 24 RDIMM	16 GB x 24	8 GB x 8	8 GB x 16 (拡張ストレージ付き)
データ保持	スーパーキャパシタと 2 つの RAID コントローラそれぞれのフラッシュメモリ	RAID コントローラごとの 1 つのリチウムイオンバッテリーのバックアップユニットから NVRAM (システムにつき 2 個)	1 つの内部 RAID コントローラ用フラッシュメモリカード搭載 MFBU 最初のストレージシェルフ購入時に、1 つの外部 RAID コントローラ用フラッシュメモリカード搭載 MFBU	フラッシュとスーパーキャパシタを搭載する 1 つのメンテナンスフリーバックアップユニット (MFBU) 2 番目の MFBU は拡張ストレージとともに追加されます

パラメータ	NetBackup 5340	NetBackup 5330	NetBackup 5240	NetBackup 5230
PCI アドインカード スロット	8	6	8	6
オンボード 10 GB イーサネットポート	0 (4 つのオンボード 1 GbE ポート)	2	2	2
PCI アセンブリの 10 Gb イーサネット カード	最大 5 枚のカード (10 個の ポート)	最大 4 枚のカード (8 個のポート) *	最大 3 枚のカード (6 個のポート)	最大 1 枚のカード (2 個 のポート)
PCI アセンブリに追 加の 1 Gb イーサ ネットカード	不可	不可	最大 1 枚のカード (4 個のポート)	不可
PCI アセンブリの SAS RAID カード	不可	不可	可 (最初のストレージ シェルフの購入時に付 属)	可 (拡張ストレージに付 属)
冗長外部ストレージ ベースの RAID コ ントローラ x 2	可	可	不可	不可
外部ストレージ	1 つの必須プライマリ ストレージシェルフと最大 3 つ のオプションの拡張ストレ ージシェルフ	1 つの必須プライマリ ストレージシェルフと最大 5 つのオプションの拡 張ストレージシェルフ	最大 4 つのストレージ シェルフ	最大 4 つの Veritas ス トレージシェルフ
外部ストレージを含 む最大ストレージ容 量	1920 TB	1364 TB	201 TB	157 TB
最大の外部ストレ ージでの標準の消費 電力	5800 W (3.0 W/TB)	2442 W (1.79 W/TB)	1140 W (5.6 W/TB)	1500 W (9.5 W/TB)

メモ: *NetBackup 5330 Appliance には全構成の標準コンポーネントとして常に 2 つの 10Gb イーサネットポートが含まれます。

NetBackup Appliance の互換性

この章では以下の項目について説明しています。

- [ソフトウェアリリース形式について](#)
- [NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて](#)

ソフトウェアリリース形式について

さまざまなレベルの NetBackup リリースを利用できるようにすることで、ベリタスはお客様のニーズに対応するというポリシーを順守しています。次のリストで、さまざまなリリース形式と、それに対応するバージョン番号付与の仕組みについて示します。NetBackup Appliance 製品ではこれらのリリース形式と番号付与の仕組みを使います。

- メジャーリリースは、一連のリリースのうち最初のリリースです。この形式のリリースには、多くの新機能や拡張機能が含まれます。
- マイナーリリースは、メジャーリリース番号の後にドットを付けた番号のリリースです。たとえば、**2.6** のようになります。このリリース形式の要件は、メジャーリリースとほぼ同じです。メジャーリリースよりも小規模な新機能や拡張機能が含まれます。
- ソフトウェアリリース更新は、メジャーリリース番号の後にドットを **2** つ付けた番号のリリースです。たとえば、**2.6.1** のようになります。このリリース形式では、いくつかの新機能や拡張機能、および多くの製品の修正が含まれています。
- メンテナンスリリース更新は、メジャーリリース番号の後にドットを **3** つ付けた番号のリリースです。たとえば、**2.6.1.2** のようになります。このリリース形式は主に、メジャー、マイナー、ソフトウェア更新リリースの問題に対処するために開発された修正から構成されています。このリリース形式には、いくつかの新機能や拡張機能も含まれます。

NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて

ソフトウェアの更新リリースが利用可能なときは、インストールして最新の製品機能と修正が確実に含まれるようにすることを推奨します。

アプライアンスソフトウェアをアップグレードするとき、更新リリースはオペレーティングシステム、NetBackup、すべてのアプライアンスインターフェースの更新バージョンをインストールすることがあります。すべてのサービスはアップグレードが始まると自動的に終了し、それからすべての更新が適用された後で自動的に再起動されます。

メモ: 現在、アプライアンスで 2.7.1 より前のバージョンを使用している場合、バージョン 3.1.1 にアップグレードするには 2 回アップグレードする必要があります。バージョン 3.1 にアップグレードしてから、バージョン 3.1.1 にアップグレードすることをお勧めします。

システム停止時間を最小化するため、アプライアンスのアップグレードは前もって計画することを推奨します。

以下に、アプライアンスソフトウェアのアップグレードをどのように計画して実行する必要があるのかについて説明します。

- 常にシステムの動作状態が最も低いときにアップグレードをスケジュール設定します。アップグレードを開始する前にすべてのバックアップとリストア操作を中断することを推奨します。
- ソフトウェアの更新を始める前に、接続が切断されないようにするための対策を採ることを推奨します。アプライアンスのアップグレードに使用するコンピュータは、スリープ、シャットダウン、電源の遮断の動作をしないように設定してください。そうしないと、ネットワーク接続が失われます。インストール中に接続が失われると、操作は失敗する場合があります。
- アプライアンスマスターサーバーは常に、一緒に使われるあらゆるアプライアンスメディアサーバーと同じかそれ以降のバージョンである必要があります。このルールの唯一の例外は、ベリタスがメジャー、マイナー、ソフトウェア更新のあらゆるリリースに対してメンテナンスリリースを提供している場合です。メンテナンスリリースのバージョン番号は 4 つの数字 (2.x.x.x) で識別されます。
- アプライアンスをアップグレードするときは、アプライアンスで利用可能なソフトウェアの更新のみを使う必要があります。アプライアンスソフトウェアの更新は、アプライアンス、NetBackup、オペレーティングシステムのコンポーネントの更新から成っている完全なパッケージです。ベリタスは、いずれかのコンポーネントに対する個別のアプライアンスアップグレードはサポートしません。
- アプライアンスマスターサーバーは、必ずアプライアンスメディアサーバーをアップグレードする前にアップグレードする必要があります。

- NetBackup appliance バージョン 3.1.1 のアップグレードには、構成ボリュームに少なくとも 100 GB が必要です。アップグレードを開始する前に、パーティションをリサイズしてください。詳しくは、『NetBackup アプライアンスアップグレードガイド』を参照してください。
- アップグレードを開始したら、完了するまで実行する必要があります。

メモ: アップグレードを中止しないことを推奨します。中止した場合、予想外のシステム動作を経験することがあります。たとえば、サービスの再起動中にアップグレードが中止されると、すぐにバックアップが失敗することがあります。この動作が予想どおりですが、システムの他の部分が影響される可能性もあります。

操作上の注意

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup appliance 3.1.1 の運用上の注意について](#)
- [NetBackup Appliance 3.1.1 の新しい運用上の注意](#)
- [NetBackup Appliance の一般的な注意](#)
- [NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意](#)
- [インストールと構成の注意](#)
- [アップグレードとロールバックの注意](#)
- [VMware に関する注意事項](#)
- [NetBackup サポートユーティリティについて](#)
- [NetBackup appliance のログファイルについて](#)

NetBackup appliance 3.1.1 の運用上の注意について

この章では、NetBackup Appliance 3.1.1 の運用上、付属マニュアルの他の箇所では文書化されない可能性のある重要な点について説明します。この文書はベリタスのサポート Web サイトで公開されたもので、NetBackup appliance 3.1.1 の GA リリース後更新される場合があります。そのため、次のリンクを参照して、最新のリリース情報を確認することをお勧めします。

NetBackup Appliance 3.1.1 には NetBackup 8.1.1 ソフトウェアをインストールするため、NetBackup 8.1.1 に適用される操作上の注意は、NetBackup appliance 3.1.1 にも当てはまります。NetBackup の操作上の注意について詳しくは、Veritas サポート Web サイトで『NetBackup 8.1.1 リリースノート』を参照してください。

NetBackup Appliance 3.1.1 の新しい運用上の注意

メモ: 以前のリリースの操作上の注意に詳しい方は、このセクションのこのリリースに関する新しい内容のみを確認してください。このドキュメントの付録「リリース内容」で、このリリースで解決された問題を確認してください。

メモ: このセクションに記載されている注意事項および既知の問題は以前のリリースにも該当することがあります。

次のリストに、このリリースで新たにドキュメントに追加された注意事項と既知の問題を示します。

- 現在 NetBackup Appliance ソフトウェアバージョン 2.7.1 または 2.7.2 を使用していて、バージョン 3.1.1 にアップグレードする予定の場合、リリースパッケージを手動でダウンロードする必要があります。アップグレードパッケージを手動でダウンロードする方法については、次のマニュアルを参照してください。

NetBackup Appliance リリース 3.1.1

NetBackup Appliance アップグレードガイド

バージョン 2.7.1 より前の NetBackup 5220、5230、5330 Appliance をバージョン 3.1.1 にするには、2 回アップグレードする必要があります。最初にバージョン 3.1 にアップグレードしてから、バージョン 3.1.1 にアップグレードします。

- このリリースでは、アップグレードするアプライアンスで IPsec 機能を設定している場合、アップグレードの完了後に IPsec 証明書が保持されない可能性があります。この問題を回避するには、アプライアンスをアップグレードする前に IPsec 証明書をエクスポートする必要があります。詳しくは、リリース 3.1.1 の『Veritas NetBackup Appliance アップグレードガイド』でトピック「アプライアンスのアップグレード前のタスク」を参照してください。

- チェックポイントを作成した後で FIPS 機能を有効にして、そのチェックポイントにロールバックすると、FIPS 機能が無効にならず、有効になったままになる可能性があります。チェックポイントを作成する前に FIPS が有効になっていたが、ロールバック後に無効にした場合も、同様の現象が起こることがあります。

チェックポイントにロールバックした後の FIPS 機能の状態が正しいことを確認するには、ロールバックの完了後に次のコマンドを実行します。

```
Settings > Security > FIPS > Status
```

コマンドの結果が機能の誤った状態を示す場合、次のコマンドのいずれかを実行して機能を正しく設定します。

```
Settings > Security > FIPS > Enable
```

```
Settings > Security > FIPS > Disable
```

- 再構成プロセスの間にデータを保存する場合は、NetBackup Appliance シェルメニューを使う必要があります。NetBackup Appliance Web コンソールを使用した再構成はサポートされません。出荷時の設定にリセットしてストレージを保存する場合、NetBackup Appliance Web コンソールから初期構成を実行すると、既存の標準の共有と最適化された共有のパーティションが削除されることに注意してください。この問題は、NetBackup Appliance Web コンソールから再構成する場合のみ発生しません。
- アプライアンス管理コンソールから NetBackup アプライアンス 3.1 をバージョン 3.1.1 にアップグレードする場合、アプライアンス管理コンソールでアプライアンスのデータ (バージョンなど) は更新されません。更新された情報を表示して通常の機能を復元するには、アプライアンス管理コンソールに再度アプライアンスを追加します。手順については、『アプライアンス管理ガイド』を参照してください。

メモ: 再度アプライアンスを追加する場合、アプライアンス管理コンソールからアプライアンスを削除する必要はありません。

- アプライアンス管理サーバー (バージョン 3.1.1) を使用して NetBackup アプライアンスを 3.1 にアップグレードする場合、アプライアンス管理コンソールの [バージョン (Version)]、[使用済み容量の合計 (Total capacity used)]、[前回の接続日時 (Last contact time)] フィールドは更新されません。テクニカルサポートにお問い合わせください。
- 構成ディスクのデータ消去タスクを初期化すると、次のエラーメッセージが必ず表示されます。これは、その時点で初期化の状態を表示できないためです。タスクが初期化されて終了したかどうかを確認するには、ベリタステクニカルサポートにお問い合わせ、担当者に社内技術文書 100041952 を参照するように依頼してください。
 - [エラー] ディスク ID「xxx xxx ... xxx」のディスク消去を初期化できません。(Cannot initialize the disk erasure for the disk ID "xxx xxx ... xxx".) 不明なエラーが発生しました。この問題を解決するには、テクニカルサポートにお問い合わせください。
- このリリースはピュア IPv6 をサポートしていません。ただし、IPv6 は、デュアルスタックネットワークではサポートされます。
- STIG 機能が有効になっているアプライアンスでバージョン 3.1.1 にアップグレードしている間に、メンテナンスアカウントユーザーとメンテナンスアカウントのパスワードとの関連付けが解除される可能性があります。この問題を回避しながらアップグレードを続行するには、次の記事を参照してください。
www.veritas.com/docs/100041852
- ユニバーサル共有の使用中に VpFS サービスがハングアップする可能性があります。この問題が発生した場合は、ベリタステクニカルサポートに連絡し、内部テクニカルノート 000127959 を参照します。

- HA 設定のいずれかのノードで Copilot ユニバーサル共有が構成されている場合、バージョン 3.1.1 にアップグレードしようとする、次のエラーでプレフライトチェックが失敗する可能性があります。
 [エラー] HA パートナーノード [node_name] でサービスリスト全体を取得できませんでした。([Error] Failed to get complete service list on HA partner node [node_name].)
 アップグレードを実行できるようにこの問題を解決するには、ベリタステクニカルサポートに連絡して、担当者に次の記事の参照を依頼してください。
www.veritas.com/docs/100041854
- バージョン 3.1 から 3.1.1 へのアップグレードが完了した後、アップグレード後のセルフテストの結果の電子メール警告を取得できません。アップグレード後のセルフテストの詳細と結果を確認するには、/log の下のログを表示します。

NetBackup Appliance の一般的な注意

次のリストに、NetBackup Appliance の一般的な使用に関する注意事項と既知の問題を示します。

- このリリースでは、構成内の Veritas Storage Shelf の電源がオフになっているか、電源が喪失すると、ハードウェアの監視インターフェースに正しい情報が反映されない可能性があります。この問題が発生した場合は、NetBackup Appliance Web Console の [監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] ページと NetBackup Appliance Shell Menu の Monitor > Hardware コマンドで存在しているストレージシェルフを表示します。表示される状態は、ストレージの電源がオフになるか、電源が喪失する前の最後の状態です。
 この場合に送信される唯一のハードウェア警告はパーティションの状態に関する警告です。UMI コード V-475-103-1002 または V-475-103-1003 のパーティションに関するハードウェア警告が表示された場合、ストレージシェルフの電源がオンになっていることを物理的に確認してください。もう一度ストレージシェルフの電源をオンにすると、Web コンソールとシェルメニューに最新の監視情報が表示されます。
 構成およびハードウェアの監視からストレージシェルフを除外する必要がある場合は、ベリタスのサポートに問い合わせてください。
- 52xx アプライアンスを再起動した場合、またはメインボードの RAID コントローラをリセットした場合に、NetBackup Appliance Web コンソールの [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] タブに、ストレージシェルフに対して異なる値のエンクロージャ ID が表示されることがあります。同様に、52xx アプライアンスを再起動した後、またはメインボードの RAID コントローラをリセットした後に、NetBackup Appliance シェルメニューで Monitor > Hardware ShowHealth StorageShelf コマンドを実行した場合にも、異なる値のエンクロージャ ID が表示されることがあります。この場合、同じエンクロージャ (ストレージシェルフ) に対して複数のエンクロージャ ID が表示されます。

バージョン 2.7.1 または 2.7.2 を使っている場合に、この問題を解決するには、テクニカルサポートに問い合わせてください。

バージョン 2.7.3 を使っている場合に、この問題を解決するには、**NetBackup Appliance** シェルメニューにログオンして、次のコマンドを実行します: Main > Support > Cleanup > RemoveShelfEntries

コマンドについて詳しくは、『**NetBackup Appliance** コマンドリファレンスガイド』の「Support > Cleanup > RemoveShelfEntries」のセクションを参照してください。

- **52xx** ストレージシェルフが **NetBackup Appliance Web** コンソールまたは **NetBackup Appliance** シェルメニューに表示される順序は、それぞれの環境の実際の順序およびレイアウトと異なることがあります。ストレージシェルフの順序は、左ペインの[監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)] タブに、[**NetBackup StorageShelf 1**]、[**NetBackup StorageShelf2**] のように表示されます。同様に、ストレージシェルフの順序は、Monitor > Hardware > ShowHealth コマンドを実行すると **NetBackup Appliance** シェルメニューに表示されます。
- メインボードの RAID コントローラを **52xx** アプライアンスから取り外した場合に [監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)]、[アダプタ (Adapter)] タブをクリックするか、または Monitor > Hardware ShowHealth Appliance Adapter コマンドを実行すると、**NetBackup Appliance Web** コンソールまたは **NetBackup Appliance** シェルメニューに古いデータが表示されることがあります。
- **5240** アプライアンスの RAID 1 ボリュームにディスクが見つからず、Monitor > Hardware ShowHealth Appliance RAID コマンドを実行する場合、見つからないディスクの場所が誤ってスロット 0 と表示されます。
5240 アプライアンスで [監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] > [RAID] に移動するときに **NetBackup Appliance Web** コンソールで同じ動作が観察されます。この問題は、**5240** アプライアンスに当てはまり、アプライアンスの RAID 1 ボリューム上のディスクが見つからない場合に観察されます。
- Veritas Storage Shelf を **NetBackup 52xx Appliance** に接続した場合、ストレージシェルフをオンにすると、ストレージシェルフの各ストレージディスクごとに **AutoSupport** 警告 (UMI コード V-475-100-1004) が生成されます。次のメッセージが表示されます。
「外部構成をインポートするか、ディスクを消去することができます。」
これらの警告は無視しても問題ありません。
初期構成中にストレージシェルフを接続した場合、初期構成が完了すると警告は消えます。
初期構成後にストレージシェルフを接続した場合、インストール手順の中でストレージスキャンを実行すると警告は消えます。**NetBackup Appliance Web** コンソールと **NetBackup Appliance** シェルメニューは、インストールの完了後、約 5 分間、ストレージシェルフの誤ったデータを表示することがあります。
ストレージシェルフのインストールの詳細については、『**NetBackup Appliance** ハードウェア取り付けガイド』を参照してください。

- アプライアンスのソフトウェアバージョンをアップグレードした後に、アプライアンスのログインバナーが維持されません。この問題を回避するには、アップグレードの前に `LoginBanner Show` コマンドを実行し、ログインバナーのテキストをコピーします。アップグレード後に、`LoginBanner Set` コマンドを実行し、コピーしたテキストを使って同じログインバナーを設定します。
- ログインバナーの見出しまたはログインバナーのメッセージの 1 行に `ERROR:` というテキストのみが含まれる場合は、アプライアンスのセルフテストが失敗します。
- 複数のセッションからのアプライアンスのユーザーを同時に作成すると、ユーザー作成が失敗することがあります。この問題が起きた場合は、失敗したユーザーのすべてについてユーザー作成を再試行します。
- **NetBackup 5330 Appliance** では、LUN オーナーシップを 1 つのコントローラから別のコントローラにフェールオーバーするときに優先パスエラーが起きる場合があります。1 つのコントローラが他のコントローラをリセットして、それが原因で優先パスエラーが起きる場合があります。このエラーが起きると、アプライアンスハードウェア監視の [ストレージステータス (Storage Status)] に [最適でない (Not Optimal)] と表示されます。このエラーは解消されるまでに数週間続く場合があります。このエラーが解消されない場合は、すべてのパスがエラーになり、影響を受けるコントローラがオフラインになり、その結果、冗長性とパフォーマンスが低下します。この問題が起きた場合は、ベリタスのサポートに連絡して、担当者に **TECH225558** を参照するように伝えてください。
- **Windows 7/8.1** クライアントはアプライアンスの CIFS 共有に自動的にアクセスできません。この問題を回避するには、クライアントの **Windows** コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
net use /user:admin %¥appliance-name *.appliance-name
```

appliance-name はアプライアンスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) です。
 メッセージが表示されたら、プロンプトでアプライアンス管理者のパスワードを入力します。
 このコマンドを実行すると、クライアントは CIFS 共有にアクセスできます。
- **ManageEngine** または **Wireshark** のようなネットワークプロトコルアナライザを使い、アプライアンスに **SNMP** を構成している場合は、アプライアンスの **SNMP** トラップの [経過時間 (TimeTicks)] フィールドは正しくなりません。
- **NetBackup Appliance** のこのリリースでは、アプライアンスをバックアップホストまたはリカバリホストとして使った場合は、レプリケーションディレクタ (RD) リストアで動的マルチパス (DMP) がサポートされません。
- 出荷時の設定へのリセット中、次のメッセージが表示される場合の手順を示します。

```
RESET STORAGE CONFIGURATION and BACKUP DATA [Optional]
```

 [いいえ (no)] を選択すると、ストレージ関連の構成は保持されます。出荷時の設定へのリセット後、最初の構成で **Advanced Disk** と **MSDP** のサイズを 0 に設定していないことを確認します。指定した場合、役割の構成は失敗します。

メモ: AdvancedDisk および MSDP パーティションのサイズが出荷時の設定へのリセット前に 0 に設定されていた場合、最初の構成の実行時 0 のままにできます。

- バージョン 2.6.1 より、出荷時の設定にリセットする際にネットワークとストレージ構成設定の維持を選択すると、"ボリュームをロールバックできません (Cannot rollback volume)" というエラーメッセージが表示されます。このメッセージは、出荷時の設定へのリセットの処理中にアプライアンスのネットワーク構成を保存できなかったことを示します。出荷時の設定へのリセット正常に完了しましたが、ネットワークパラメータを再構成する必要があります。
 詳しくは、Veritas のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。
www.veritas.com/docs/100032270

NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意

次のリストに、NetBackup Appliance Web Console と NetBackup Appliance Shell Menu に関する注意事項および既知の問題を示します。

- 画面解像度を 1280 x 1024 以上に拡張したときに、フォントサイズを 11 ポイントより大きく設定すると、コマンドラインインターフェースが適切に表示されない場合があります。この状況を回避するためには、高い画面解像度に変更した場合でも、コマンドラインインターフェースのデフォルトのフォントサイズを変更しない必要があります。
- NetBackup Appliance Web Console のホームページにハードウェアエラーが表示されていても、[監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] ページにエラーが表示されていない場合、NetBackup Appliance Shell Menu で現在の状態を確認してください。[監視 (Monitor)] > [ハードウェア (Hardware)] ページにシェルメニューで利用できる情報の一部が含まれない場合があります。
- アプライアンスに NetBackup クライアントのアドオンパッケージをインストールすると、NetBackup Appliance Web コンソールには不正な [アップグレード後のバージョン (Version after upgrade)] が表示されます。クライアントパッケージのインストールはアプライアンスのソフトウェアバージョンに影響しません。ただし、Web コンソールは NetBackup バージョンをアップグレード後のバージョンで表示します。
- NetBackup Appliance Web コンソールの [監視 (Monitor)] > [SCSP イベント (SCSP Events)] ページにはユーザーセッションは正しく記録されません。ユーザーセッションのログインはページに記録されますが、ログアウトの情報は記録されません。
- 次のシナリオにあるように、Active Directory (AD) ユーザー名の機能に一貫がありません。
 - NetBackup Appliance Web Console および NetBackup Appliance Shell Menu

これらのインターフェースは、Active Directory (AD) のユーザー名の大文字と小文字を区別しません。

- **NetBackup Java コンソール**

このインターフェースは、Active Directory (AD) のユーザー名の大文字と小文字を区別します。すべて小文字でユーザー名を入力した場合、NetBackup 管理者のコンソールへのアクセスが許可されます。すべて大文字でユーザー名を入力した場合、NetBackup のバックアップ、アーカイブ、復元インターフェースへのアクセスが許可されます。

- **NetBackup Appliance** シェルメニューの Main > Settings > Security > Authentication > LDAP > Certificate set path name コマンドでは、パス名がハイフンを含んでいる場合、受け入れられません。ハイフンが含まれるパス名は、NetBackup Appliance Web コンソールで受け入れられます。
- アプライアンスがプロビジョニングされていない場合は、NetBackup Appliance Web コンソールランディングページに次の通知が表示されます。
コールホームサービスが機能していません。コールホームサーバーでシステムがプロビジョニングされたかどうかを確認するには、ベリタステクニカルサポートにご連絡ください。(Call Home service is not functional. Please contact Veritas Technical Support to verify if the system has been provisioned on Call Home server.)
ただし、この通知は表示されない場合もあります。アプライアンスの日付と時刻がネットワークタイムプロトコル (NTP) ごとに設定されていない場合は、ランディングページには日付と時刻を更新するための通知のみが表示されます。NTP ごとに日付と時刻を設定すると、コールホーム通知が表示されます。
- Veritas Remote Manager からアラートの構成はサポートされません。アラートの構成は、NetBackup Appliance Web Console の [設定 (Settings)] > [通知 (Notifications)] > [アラートの構成 (Alert configuration)] メニュー、または NetBackup Appliance Shell Menu の Settings > Alerts コマンドビューからサポートされます。詳しくは、[設定 (Settings)] > [通知 (Notifications)] > [アラートの構成 (Alert configuration)] セクションを『NetBackup Appliance 管理者ガイド』で参照するか、Main > Settings > Alerts ビューコマンドのセクションを『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』で参照してください。

インストールと構成の注意

次のリストに、アプライアンスのインストールと構成に関する注意事項と既知の問題を示します。

- **NetBackup 5330 Appliance** にプライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフが含まれ、拡張シェルフに RAID ボリュームが設定されている場合は、アプライアンスのセットアップから拡張ストレージシェルフを削除しないでください。拡張シェルフを削除すると、プライマリシェルフは拡張シェルフが電源オフになったかのように動作し、エラーが発生します。拡張シェルフを削除する必要がある場合は、セットアップか

ら拡張シェルフを削除する前に[サポート(Support)]、[RAID 解除(RAID Clear)]コマンドを実行する必要があります。

警告: [サポート(Support)]、[RAID 解除(RAID Clear)]コマンドにより、両方のストレージシェルフからすべてのデータが削除されます。このコマンドを実行する前に、必ず他の場所にデータを保存してください。

- 以前に使ったアプライアンスに **NetBackup Appliance** の新しいバージョンをインストールすると、アプライアンスの構成中に次のエラーメッセージを受信することがあります。

```
Cannot recover the existing MSDP partition because the NetBackup  
disk pool and storage unit could not be determined. ...  
- [Error] Could not configure the appliance.
```

このエラーは、既存のメディアサーバー重複排除プール (MSDP) のディスクプール名に + が含まれている場合に起きます。この問題が起きた場合は、ディスクプール名に + が含まれないようにディスクプール名を変更し、手動で MSDP パーティションを構成する必要があります。Manage > Storage > Resize コマンドを使ってパーティションを構成します。

- 共有ディレクトリにソフトウェアの更新をコピーする場合は、コピーが完了するまでは他のコマンドを開始しないでください。コピー処理中にコマンドを実行すると、ソフトウェアの更新がリストに登録され利用可能になったことが表示される場合があります。ただし、そのソフトウェアの更新をインストールすると失敗する場合があります。
- メディアサーバーの初回構成時に「ライセンスがありません」というメッセージを受信した場合は、この電子メールを無視しても安全です。この電子メールはホスト名の構成時に送信されます。新しいホスト名への変更時にライセンスキーファイルの名前が変更され、警告機構で一時的にライセンスを特定できなくなります。構成が完了すると、ライセンスは正しく設定されます。ライセンスキーは、**NetBackup Appliance Web** コンソールの [管理 (Manage)] > [ライセンス (License)] ページまたは **NetBackup Appliance** シェルフメニューの Main > Manage > License > List コマンドで確認できます。
- iSCSI は IPv4 アドレスのみをサポートします。IPv6 を介した iSCSI 接続はサポートされません。さらに、イニシエータとターゲットは同じレイヤ 2 (L2) ネットワーク上にある必要があります。
- 10 Gb イーサネット/iSCSI カードでは、QLogic Small Form-Factor Pluggable (SFP+) モジュールのみがサポートされます。この要件は **NetBackup 5240 Appliance** の構成 H に適用されます。**NetBackup 5340 Appliance** の構成 A、B、C、D、および E でも、iSCSI をサポートします。

- **VLAN** は、ネットワークインターフェースまたは **iSCSI** インターフェースのいずれかで構成できます。**VLAN** をネットワークと **iSCSI** インターフェースの両方で構成すると、ネットワークインターフェースの **VLAN** が両方のインターフェースで有効になります。**VLAN** が異なるサブネットでネットワークと **iSCSI** インターフェースの両方で構成されている場合、その構成はサポートされないことに注意してください。

ネットワークインターフェース		iSCSI インターフェース		説明
IP	VLAN	IP	VLAN	
サブネット X	なし	サブネット X	なし	サポート
サブネット X	なし	サブネット Y	VLAN A	サポート
サブネット X	VLAN B	サブネット X	VLAN B	サポート
サブネット X	VLAN B	サブネット Y	VLAN B	サポートされない

- ターゲットへの接続後に `iSCSI > Target Discover Portal` または `iSCSI > Target Discover iSNS` コマンドを再実行する場合は、ターゲットのクレデンシャルなどの既存の接続設定が上書きされます。ターゲットに認証が必要な場合は、既存のセッションが再接続されたときターゲットの資格情報を再入力する必要があります。アプライアンスを再起動する場合、アプライアンスの **IQN** を変更する場合、**iSCSI** プロセスを再起動する場合などは、既存のセッションを再接続する必要があります。
- 2 つの **iSCSI** インターフェースで **iSNS** を使用してターゲットが検出された場合、`Target Show All` コマンドで表示されるのは最新レコードのみです。たとえば、`Target Discover iSNS` コマンドを **iscsi1** に実行した後に **iscsi2** でコマンドを実行した場合、[インターフェース (Interfaces)] 列は `Target Show All` コマンドで出力されると、一部のターゲットに両方のインターフェース (**iscsi1**、**iscsi2**) は表示されない場合があります。一部のターゲットに対しては、直近のコマンドからのインターフェースのみが表示されます (この場合は **iscsi2**)。
- **iSCSI** インターフェース上でワークロードが稼働中の場合、`iSCSI > Target Disconnect` コマンドの完了までの時間が長くなります。
NetBackup Appliance シェルメニューには次のようなメッセージが表示される場合があります。

```
Message from syslogd@host at Sep 12 10:09:14 ...
iscsid:
Message from syslogd@host at Sep 12 10:13:27 ...
iscsid:
Message from syslogd@host at Sep 12 10:17:53 ...
iscsid:
```

これらのメッセージは、NetBackup Appliance シェルメニューに異なるタイミングで表示される場合があります。これらは、iSCSI コマンドを実行しているとき、コマンド出力の途中、またはコンソールがアイドル状態のときにも表示されます。これらのメッセージは無害で無視できます。

- ターゲットデバイスで CHAP 認証を有効にして、iSNS を使用してターゲットを検出するとき、iSCSI > Target Discover コマンドを使用してもターゲットの資格情報の入力が必要とされない場合もあります。

アップグレードとロールバックの注意

次のリストに、アップグレードとロールバックに関する注意事項と既知の問題を示します。

- 3.1.1 へのアップグレード中、チェックポイントが作成された直後にキャンセルされた複製操作が再開された場合、アップグレードは失敗し、システムは自動的にロールバックされます。ロールバック後は、メディアサーバーがアクティブではなくなるため、バックアップは機能しません。この問題を解消するためには、次の手順でメディアサーバーを手動でアクティブ化します。
 - NetBackup の管理コンソールに管理者としてログオンします。
 - 左のパネルで、[メディアおよびデバイスの管理 (Media and Device Management)]>[デバイス (Devices)]>[メディアサーバー (Media Servers)]に移動します。
 - 右のパネルで対象のメディアサーバーを右クリックし、ショートカットメニューから [アクティブ化する (activate)]を選択します。

メモ: この問題を回避するためには、サーバーをアップグレードする前にすべてのバックアップジョブが停止していることを確認する必要があります。

マスターサーバーをアップグレードする前に、すべてのジョブおよび SLP (ストレージライフサイクルポリシー) を一時停止します。

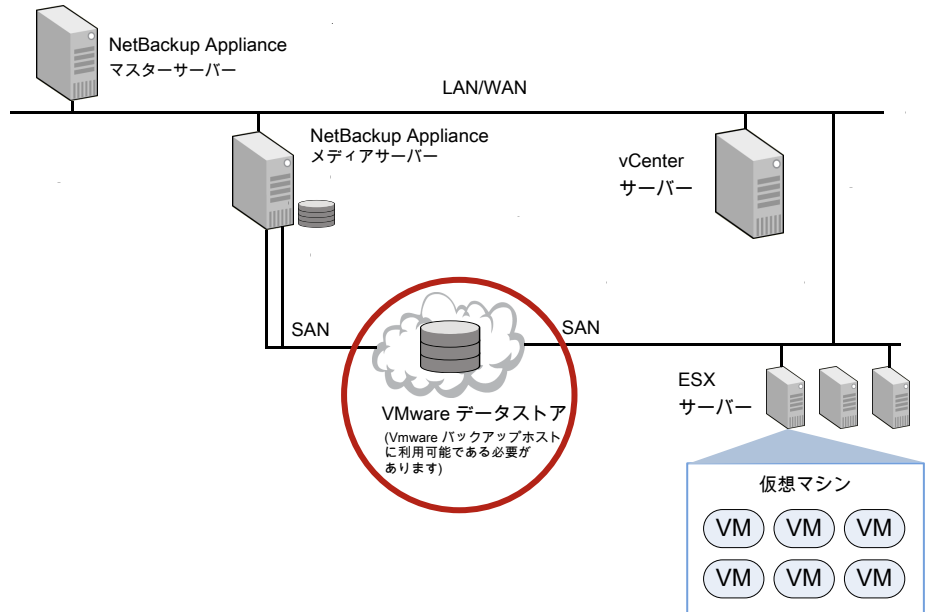
メディアサーバーをアップグレードする前に、現在動作しているすべてのジョブを停止し、アップグレード中に開始するようにスケジュールされた可能性のあるジョブを一時停止します。アップグレード中にメディアサーバーでジョブが開始されないようにする必要があります。

VMware に関する注意事項

次のリストに、VMware に関する注意事項および既知の問題を示します。

- VMware データストアを接続した NetBackup 5330 Appliance がベリタス以外の外部 NetApp E-series ストレージデバイスの場合は、外部ストレージのアクセス LUN

が **5330 Appliance** に公開されていないことを確認します。アクセス LUN を **5330 Appliance** に公開していると、ストレージデバイスのアプライアンスハードウェアの監視やスキャンなどの一部の機能が正しく動きません。
 次の図に、この問題が影響を与える環境の種類を示します。



NetBackup サポートユーティリティについて

NetBackup appliance には、NetBackup の問題の診断に役立つ次のサポートユーティリティが用意されています。

- 「[NBDNA \(NetBackup Domain Network Analyzer\)](#)」
- 「[NetBackup サポートユーティリティ \(NBSU\)](#)」

NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer)

NetBackup appliance で NBDNA ユーティリティを実行すると、次のタスクを実行できます。

- ネットワーク関連の問題を解決するために NetBackup ドメイン構成を識別する
- NetBackup パフォーマンスの問題を特定する
- ホスト名のロックアップ動作が機能するかどうかを確認する

- **NetBackup** ドメイン内での役割に基づき、**NetBackup** ホストとアプライアンス間の接続が確立され、機能するかどうかを確認する
- **Veritas** テクニカルサポートに提出するレポートを生成する

NBDNA ユーティリティで次の種類の情報を出力します。

```
Running audit as Media Server.
```

```
Collection Version: x.x
  Collection Time: Tuesday, October 7, 2010 at 19:17:11 PM
    NBU Release: NetBackup-RedHat2.6.18 7.7.1
    NBU Version: 7.7.1
  NBU Major Version: 7
  NBU Minor Version: 7
  NBU Release Update: 1
    NBU Patch Type: Release Update
  NBU GlobDB Host: "host name"
  Is GlobDB HOST? No
    UNAME:
      Hostname: sample.name.veritas.com
  Host's Platform: Linux
  Perl Architecture: Linux
```

```
Initialization completed in 14.040101 seconds.
```

```
Brief Description of What It Does (for type 1):
```

- ```

```
- 1) Perform basic self checks.
  - 2) Check connectivity to Master (and EMM) server.
  - 3) If SSO configured, get list of media servers sharing devices.
  - 4) Get list of all clients which could send data here for backup.
  - 5) Test NBU ports for basic connectivity between media servers sharing devices.
  - 6) Test NBU ports for basic connectivity between media server and clients it backs up.
  - 7) Perform service level tests for phase 2
  - 8) Capture data for reports; save reports.
  - 9) Save data to report files.
- ```
-----
```

```
Discovering and mapping the NetBackup domain network for analysis by extracting data from current system's configuration.
```

```
(To see more details, consider using '-verbose' switch.)

Probing Completed in 2.867581 seconds.

Initiating tests...

COMPLETED. Thank you for your patience.

/log/dna/sample.name.veritas.com.NBDNA.20100907.191711.zip
Archive created successfully!
Return /log/dna/sample.name.veritas.com.NBDNA.20100907.191711.zip
to Veritas Support upon request.
```

NetBackup サポートユーティリティ (NBSU)

NBSU ユーティリティを使用すると、NetBackup とオペレーティングシステムに関する適切な診断情報を収集できます。

NetBackup サポートユーティリティ (NBSU) は Veritas 社のユーティリティで、ユーティリティを実行するシステムの診断情報を収集するために使用します。デフォルトでは、NBSU はオペレーティングシステムと NetBackup 環境に基づいて適切な診断情報を収集します。

Support > NBSU コマンドを使って NBSU ユーティリティが使用する NetBackup 構成サポートファイルを作成または削除できます。

詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

その他の利用可能なサポートについて

NetBackup Appliance の追加のサポートが必要になった場合は、ベリタスのテクニカルサポートに問い合わせてください。現在有効なサポートについての同意事項をお持ちのお客様は、次の URL でテクニカルサポートにアクセスできます。

www.veritas.com/support/

NetBackup Appliance 固有の情報については、[NetBackup Appliance サポートページ](#)を参照してください。

NetBackup appliance のログファイルについて

ログファイルは、アブライアンスで発生する可能性がある問題の特定と解決に役立ちます。

NetBackup appliance では、ハードウェア、ソフトウェア、システム、パフォーマンス関連のデータを取得できます。ログファイルは、アプライアンス操作などの情報、未構成ボリュームまたはアレイなどの問題、温度またはバッテリーに関する問題、およびその他の詳細を取得します。

表 5-1 に、アプライアンスのログファイルにアクセスするために使用できる方法を説明します。

表 5-1 ログファイルの表示

使用する媒体	アクセス方法	ログの詳細
NetBackup Appliance Web Console	NetBackup Appliance Web Consoleの[モニター (Monitor)]>[SDCS 監査ビュー (SCSP Audit View)]画面を使用して、アプライアンスの監査ログを取得できます。	アプライアンスの監査ログ
NetBackup Appliance Shell Menu	Main > Support > Logs > Browse コマンドを実行すると、LOGROOT/> プロンプトが開きます。ls や cd コマンドを使用して、アプライアンスのログディレクトリを走査できます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ Appliance の構成ログ ■ Appliance のコマンドログ ■ Appliance のデバッグログ ■ NetBackup ログ、Volume Manager ログ、openv ディレクトリに含まれている NetBackup ログ ■ Appliance のオペレーティングシステム (OS) インストールログ ■ NetBackup 管理 Web ユーザーインターフェースログと NetBackup Web サーバーログ ■ NetBackup 52xx アプライアンスのデバイスログ

使用する媒体	アクセス方法	ログの詳細
NetBackup Appliance Shell Menu	<p>Main > Support > Logs > VxLogView Module <i>ModuleName</i> コマンドを実行して、Appliance VxUL (統合) ログにアクセスすることができます。Main > Support > Share Open コマンドを実行し、デスクトップを使用して VxUL ログのマップ、共有、コピーを行うこともできます。</p>	<p>Appliance 統合ログ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ All ■ CallHome ■ Checkpoint ■ Commands ■ Common ■ Config ■ CrossHost ■ Database ■ Hardware ■ HWMonitor ■ Network ■ RAID ■ Seeding ■ SelfTest ■ Storage ■ SWUpdate ■ Trace ■ FTMS ■ FTDedup ■ TaskService ■ AuthService
NetBackup Appliance Shell Menu	<p>Main > Support > DataCollect コマンドを実行して、ストレージデバイスログを収集できます。</p>	<p>Appliance ストレージデバイスログ</p>
NetBackup Java アプリケーション	<p>NetBackup Java アプリケーションに関する問題が発生した場合、このセクションのスクリプトを使って、サポートに連絡するために必要な情報を集めることができます。</p>	<p>NetBackup Java アプリケーションに関するログ</p>

リリース内容

この付録では以下の項目について説明しています。

- [現在のリリースの内容について](#)
- [NetBackup Appliance 3.1.1 の一般的なリリース内容](#)
- [NetBackup Appliance のセキュリティリリース内容](#)

現在のリリースの内容について

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。このセクションには、NetBackup Appliance のこのリリースで解決された既知の問題が示されています。

メモ: この章では、NetBackup Appliance 限定の修正のみを説明します。NetBackup Appliance 3.1.1 リリースには、NetBackup の 8.1.1 に含まれるすべての修正も含まれます。NetBackup 8.1.1 の修正の詳細なリストについては、ベリタスのサポート Web サイトにある『NetBackup 8.1.1 リリースノート』を参照してください。

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup ソフトウェアバージョン 8.1.1 は NetBackup appliance 3.1.1 のリリースに付属しています。NetBackup 8.1.1 の新しい機能、拡張および修正については、ベリタスのサポート Web サイトの文書『NetBackup 8.1.1 リリースノート』に記載しています。

また、NetBackup Appliance の互換性に関する最新情報については、Veritas のサポート Web サイトの『NetBackup Enterprise Server and Server 7.x Hardware Compatibility List』を参照してください。

www.netbackup.com/compatibility

NetBackup Appliance 3.1.1 の一般的なリリース内容

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。

一部の問題は特定、解決されました。EEB の形で利用可能です。次のリストでは、これらの問題は識別のための Etrack 番号を含みます。このドキュメントが送信された後で、追加の EEB がリリースされている可能性があります。このセクションにある解決した問題について詳しくは、Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) を参照してください。SORT にアクセスするには、次の Web サイトに移動します。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

NetBackup Appliance のセキュリティリリース内容

次のリストには、解決された既知のセキュリティの問題およびこのリリースの NetBackup Appliance に含まれている既知の問題が掲載されています。

Spectre と Meltdown の脆弱性

NetBackup Appliance リリース 3.1.1 には、次のバリエーションに固有の修正が含まれています。

- バリエーション 1 - Spectre、CVE-2017-5753
- バリエーション 3 - Meltdown、CVE-2017-5754

これらの修正は、ローカルユーザーがバイナリファイルをインストールして実行し、他のプロセスのメモリにアクセスする潜在的な問題に対処しています。

これらの脆弱性を緩和するために、すべての NetBackup アプライアンスをできるだけ早くバージョン 3.1.1 にアップグレードすることを推奨します。これらの脆弱性について詳しくは、次の記事を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100041496

バージョン 3.1.1 で対応された他の脆弱性について以下で説明します。

- Apache Struts の脆弱性
CVE-2017-5638
- KRACK 用 WPA2 パッケージの更新
CVE-2017-13077
CVE-2017-13078
CVE-2017-13080
CVE-2017-13082
CVE-2017-13086
CVE-2017-13088

- DNS パッケージの更新
 - CVE-2017-14491
 - CVE-2017-14492
 - CVE-2017-14493
 - CVE-2017-14494
 - CVE-2017-14495
 - CVE-2017-14496
- Java の脆弱性
 - CVE-2017-10309
 - CVE-2017-10274
 - CVE-2017-10293
 - CVE-2017-10281
 - CVE-2017-10347
 - CVE-2017-10348
 - CVE-2017-10349
 - CVE-2017-10350
 - CVE-2017-10357
 - CVE-2017-10345
 - VE-2017-10346
 - CVE-2017-10285
- その他
 - CVE-2017-8030
 - CVE-2017-8046
 - CVE-2017-15288
 - CVE-2017-5645
 - CVE-2017-17485
 - CVE-2017-1000253
 - CVE-2017-7555
 - CVE-2016-10164
 - CVE-2017-2625
 - CVE-2017-2626
 - CVE-2016-10200
 - CVE-2017-2647
 - CVE-2017-8797
 - CVE-2015-8839
 - CVE-2015-8970
 - CVE-2016-9576
 - CVE-2016-7042
 - CVE-2016-7097

CVE-2016-8645
CVE-2016-9576
CVE-2016-9588
CVE-2016-9806
CVE-2016-10088
CVE-2016-10147
CVE-2017-2596
CVE-2017-2671
CVE-2017-5970
CVE-2017-6001
CVE-2017-6951
CVE-2017-7187
CVE-2017-7616
CVE-2017-7889
CVE-2017-8890
CVE-2017-9074
CVE-2017-9075
CVE-2017-9076
CVE-2017-9077
CVE-2017-9242
CVE-2014-7970
CVE-2014-7975
CVE-2016-6213
CVE-2016-9604
CVE-2016-9685
CVE-2016-10165
CVE-2016-8399
CVE-2016-9841
CVE-2017-1000111
CVE-2017-1000112
CVE-2017-10274
CVE-2017-10281
CVE-2017-10295
CVE-2017-7558
CVE-2017-10355
CVE-2017-7542
CVE-2017-10356
CVE-2017-10388
CVE-2017-7184
CVE-2017-12617

関連ドキュメント

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup アプライアンスのマニュアルについて](#)

NetBackup アプライアンスのマニュアルについて

次に挙げるマニュアルを参照すると、アプライアンスの正常なインストール、設定、使用に役立ちます。さらに、次の表でアプライアンスハードウェアのマニュアルについて説明します。

これらのマニュアルはすべて「[NetBackup Appliance マニュアルページ](#)」に投稿されています。

表 B-1 NetBackup Appliance ソフトウェアのマニュアル

ガイド	説明
NetBackup™ 52xx Appliance 初期構成ガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance Web Console または NetBackup Appliance Shell Menu での 52xx 構成プロセスが記載されています。
NetBackup™ 53xx Appliance 初期構成ガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance Web Console または NetBackup Appliance Shell Menu での 53xx 構成プロセスが記載されています。
NetBackup Appliance アップグレードガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance のアップグレードに必要な手順が記載されています。
NetBackup™ Appliance 管理者ガイド	『NetBackup™ Appliance 管理者ガイド』には次の種類の情報が記載されています。 <ul style="list-style-type: none">■ 配備情報■ アプライアンスの管理■ 監視情報

ガイド	説明
NetBackup™ Appliance コマンドリファレンスガイド	『NetBackup™ Appliance コマンドリファレンスガイド』には、NetBackup Appliance Shell Menuから使うことができるコマンド一覧が掲載されています。
アプライアンス管理ガイド	このマニュアルは、ベリタスのアプライアンス管理コンソールを使用して、複数のアプライアンスを一元管理する場合に役立ちます。ベリタスのアプライアンス管理コンソールでは、NetBackup アプライアンスの全社規模の監視と管理が可能です。3.1以降では、複数のアプライアンスでソフトウェアアップグレードを管理したり EEB をインストールできます。
NetBackup Appliance リリースノート	このマニュアルには、このバージョンの NetBackup Appliance に関する情報が記載されています。リリース中の新機能の簡単な説明、リリース更新に適用される操作の注意、既知の問題が含まれます。
NetBackup Appliance トラブルシューティングガイド	このマニュアルでは、NetBackup appliance で発生した問題のトラブルシューティング方法の概要を示し、アプライアンスのトラブルシューティングツールとログファイルについて説明します。 特定の問題に関する特定のトラブルシューティング情報については、Veritas のサポート Web サイトの NetBackup Appliance のページ を参照してください。検索機能を使用して、特定の問題に関連する技術情報を検索することができます。
NetBackup 容量計画とパフォーマンスチューニングガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance およびバックアップ環境を最適化する方法に関する情報が記載されています。これにより、バックアップ要件を分析し、各自のニーズに最適なシステムを設計できます。
NetBackup Appliance セキュリティガイド	このマニュアルには NetBackup Appliance のセキュリティ機能、およびこれらの機能を使ってアプライアンス環境の安全性を確保するための方法が記載されています。
NetBackup Appliance ファイバーチャネルガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance のサポート対象ファイバーチャネル (FC) の機能と設定が記載されています。
NetBackup Appliance iSCSI ガイド	このマニュアルでは、NetBackup アプライアンスで iSCSI がどのように機能するかについて説明します。
NetBackup Appliance Decommissioning and Reconfiguration Guide	このマニュアルには、NetBackup Appliance の廃止と再構成の方法が記載されています。

ガイド	説明
NetBackup Appliance SNMP トラップリファレンスガイド	このマニュアルでは、NetBackup Appliance SNMP トラップの詳しいリストを提供します。各トラップの意味と、エラー発生時の推奨措置について説明します。
NetBackup Copilot for Oracle 初期構成ガイド	このマニュアルでは、NetBackup および NetBackup Appliance を使用して Copilot を構成する方法の概要が記載されています。
NetBackup Appliance Third-party Legal Notices	『NetBackup Appliance Third-party Legal Notices』のマニュアルはこの製品に含まれているサードパーティソフトウェアをリストし、サードパーティソフトウェアの属性を記載しています。 このマニュアルは次の Web サイトから利用可能です。 https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements
NetBackup™ Appliance AutoSupport 2.0 リファレンスガイド	このマニュアルには、AutoSupport 2.0 に関する情報が記載されており、AutoSupport インフラでの各アプライアンスの配備方法や AutoSupport インフラでの各アプライアンスのコールホームデータの分析方法を把握できます。
NetBackup™ 53xx Appliance 高可用性リファレンスガイド	このマニュアルには、高可用性 (HA) ソリューションに関する情報が記載されています。高可用性構成の配備を理解することに役立ちます。

表 B-2 NetBackup Appliance ハードウェアのマニュアル

ガイド	説明
NetBackup™ 5230 Appliance とストレージセルフ製品の説明	このマニュアルには、NetBackup 5230 Appliance とストレージセルフの概要が記載されています。
NetBackup™ 5240 Appliance の製品説明	このマニュアルには、NetBackup 5240 Appliance とストレージセルフの概要が記載されています。
NetBackup™ 5330 Appliance の製品説明	このマニュアルには、NetBackup 5330 Appliance とストレージセルフの概要が記載されています。
NetBackup™ 5340 Appliance の製品説明	このマニュアルには、NetBackup 5340 Appliance と 5U84 ストレージセルフの概要が記載されています。

ガイド	説明
<p>NetBackup™ Appliance 安全とメンテナンスガイド</p>	<p>このマニュアルには、以下のハードウェアに関する安全情報とメンテナンス情報が記載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup 52xx Appliance ■ NetBackup 53xx Appliance ■ Veritas 3U16 24 TB/36 TB ストレージシェルフ ■ Veritas 2U12 49 TB ストレージシェルフ ■ Veritas 5U84 ストレージシェルフ